

# コロナ禍の備え「かみかべ」で万全に

## 群馬建協

群馬県建設業協会（群馬建協、青柳剛会長）が考案した避難所向けの段ボール素材の間仕切り「KAMI KABE（かみかべ）」を生かした官民の災害への備えが進んでいる。群馬建協は県内の全自治体と設置訓練を今月中旬に終える。鹿児島県建設業協会（鹿児島建協、藤田護会長）は自治体にかみかべの有効性を理解してもらった活動を始める。青柳会長は「コロナ禍の複合災害に対する地域建設業の備えの象徴になる」と期待感を示す。

かみかべは厚さ3ミリの段ボール製。リップ、ジョイント、蛇腹の壁といった部材を組み立てることで、プライベートを保てる空間ができていく。標準ユニットは2・1畳四方、高さ1・5メートル。女性を含む大人3人がテーブルや金具を使わずに20分ほどで完成させられる。伸縮が30センチ単位で可能。医療関係者が目視でき、感染症対策に必要とされる避難所・避難生活学会推奨の高さ（1・4〜1・5メートル）に合わせた。



青柳会長（左端）と群馬建協の環境すみずみパトロール隊からかみかべの説明を受ける山本知事（左から2人目）＝8月6日、群馬県庁で

## スコープ 災害対応



新型コロナウイルスの流行と自然災害という複合災害に対し、災害対応を担っている地域建設業ならではの備えとして、群馬建協が企画した。デザインを松井淳氏が担当し、日本サインデザイン協会の宮崎桂会長が専用ロゴを作った。避難所は3密（密集・密閉・密接）になりやすく、自然災害の被災地は、感染症との二重被害を受ける懸念がある。政府は避難所の3密対策を求めるものの、緊急対応で手いっぱいの際に必要措置を講じるのは難しい。

「地域を守る建設業の知恵を生かし、避難生活の質を高めた」（青柳会長）。群馬建協は、

飛まつ感染の予防や住空間の機能確保などコロナ禍の避難所に求められるポイントを整理した。その上で地域の備えになるよう、かみかべの協会各支部への「分散備蓄」、複数支部の「近場備蓄」、本部から供給す

## 自治体と設置訓練、備蓄体制の整備も

### 青柳会長の話

「協会の行動指針で、地域を守る建設業の備えの一つに災害対応組織力を挙げた。自治体との訓練はその向上になり、協力いただいた関係者に感謝申し上げる。壁やリップがあり、デザインも意識したかみかべは建築の要素がベースになっている。組み立て、搬送、備蓄を含めて災害の最前線で活躍する地域建設業のノウハウを生かした。複合災害への備えに万全を期したい」。

公明党群馬県本部の議員研修会でも組み立てのデモンストレーションを行った＝8月8日



る「補給備蓄」の体制を整えた。「隣県備蓄」も視野に入れる。設置訓練は、自治体の職員だけでなく避難所で活動するボランティアからも交え、協会支部と青年経営者部会が主体となって実施中。昨秋の台風の影響が残る嬬恋村で7月17日に行った訓練に参加した熊川栄村長は「次

の災害への備えになる」と機能を評価した。同村は50セットを調達する。8月6日には群馬県庁で訓練を実施。視察した山本一太知事は「複合災害に備える群馬モデルを発信する協会を心強く思う」と謝意を示した。青柳会長は高崎市内で同8日に行われた公明党群馬県本部の議員研修会で講演し、石井啓一前国土交通相らを前に複合災害への備えの重要性を強調した。群馬建協は豪雨に見舞われた九州の被災地に100セットを



九州豪雨の被災地の熊本県芦北町に届いたかみかべ＝7月17日

提供した。全国道の駅連絡会、全国建設産業協同組合連合会（全建協連）と連携し、7月に福岡、熊本、鹿児島各県へ搬送した。被災地の緊急対応に奔走する鹿児島建協は、「群馬が上げたのろしを広めたい」と藤田会長が賛意を表明。自治体の担当者を交えた訓練を行う方向で調整に入った。全建協連は傘下の組合にかみかべの情報を提供しており、千葉県内などから引き合いがあるという。

新型コロナウイルスは強い感染力が数日続く。避難所は1人の感染者から避難者の60%が感染するという指摘がある。感染者は血管内で血栓ができてやすい。静脈血栓塞栓（そくせん）症（エコノミークラス症候群）になる危険のある車中泊を避ける必要があるが、避難所は感染者の隔離や感染予防のゾーニングが難しい。台風シーズンに入り、群馬建協はかみかべの有効性をアピールし、地域一体で防災力の向上にまい進する。